

平成21年度第2回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時	平成21年11月26日(木) 14時15分～15時50分
開 催 場 所	いわき市役所本庁舎 8階 第8会議室
出 席 委 員	大川会長、阿部委員、石川委員、岡委員、岡田委員、鴨下委員、木田委員、佐藤委員、柴崎委員、鈴木(正)委員、鈴木(司)委員、鈴木(幸)委員、高木委員、武田委員、山野辺委員、和田委員 (18名中16名出席)
事 務 局	生活環境部 鈴木次長 環境整備課 永井課長、渡邊課長補佐、遠藤リサイクル係長、園部主査、根本主査、田中主事
議 題	議事 (1)いわき市環境基本計画改定に係るアンケート調査結果について(報告) (2)製品プラスチックと雑がみのリサイクルに向けて (3)審議会の今後のスケジュールについて (4)その他
配 布 資 料	① 資料 1-1-1 いわき市環境基本計画改定に係る市民アンケート調査について ② 資料 1-1-2 いわき市環境基本計画改定に係る市民アンケート報告書 ③ 資料 1-2-1 いわき市環境基本計画改定に係る事業者アンケート調査について ④ 資料 1-2-2 いわき市環境基本計画改定に係る事業者アンケート報告書 ⑤ 資料 2 製品プラスチックと雑がみのリサイクルに向けて ⑥ 資料 3 審議会の今後のスケジュール ⑦ 参考資料「ごみ処理行政のあり方」を検討する方向性

主 な 審 議 内 容

【会議の成立について】

事務局から、「委員18名中16名の出席があり、いわき市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則第31条第2項の規定による過半数を満たしており、会議が成立していること」が報告された。

【正副会長選出】

会長は前審議会に引き続き大川委員が、副会長は新たに武田委員が選出された。

【開催形式等】

会議については、特に非公開とする内容がない限り原則公開とすることについて、委員から承認された。

また、議事録は議事に直接関係する発言・説明内容及び委員名を記録する「要点記録方式」で作成し、会議資料と併せて市のホームページに掲載することについて、委員から承認された。

(いずれも、これまで同様の対応)

【会長より】

大川会長より、委員会運営のポリシーとして、「議論型にしよう」、「情報公開に耐えるような議論をしよう」の2点が示された。

【今回の協議事項】

(1)いわき市環境基本計画改定に係るアンケート調査結果について

リサイクル係園部主査から資料 1-1-1～1-2-2 のごみ処理部分について説明があった後、質疑応答となった。

○ 鈴木(幸)委員

アンケートは前回平成 15 年度に実施したとのことだが、何年に 1 回実施しているのか。

○ 園部主査(事務局)

何年に 1 回と決めているわけではなく、計画を見直す際など必要に応じ実施している。結果的に 5 年に 1 回程度になっている。

○ 鈴木(幸)委員

だいたいどの部署も 1,500 人程度を対象にアンケートを実施し、回収が 600 人に満たない。調査結果を見るかぎり常識的な内容であるが、回答した人は関心がある人であり、関心がない人の意見も大事だと思う。話は変わるが今回のアンケートは業者に委託したのか。

○ 園部主査(事務局)

自前で行ったものである。

○ 鈴木(幸)委員

自前は素晴らしい。貴重な意見が網羅されて参考になるが、アンケートの取り方や内容、また回収率を高める工夫などは考慮していただきたい。また対象者数や回収率など適正と言えるのか。

○ 園部主査(事務局)

回収率を高める工夫をするべきというご指摘はそのとおりだと思う。ただ、対象が 1,500 人で回収が 500～600 人が少ないのではというご指摘については、統計学上、いわき市程度の人口規模を対象にした場合、このぐらいの対象でこのぐらいの回収であれば、実際の状況とアンケートの結果が概ね一致するといわれており、少ないとは言えないと考えている。回収率がより高ければ 1,100 人ぐらいでもアンケートが成立する。一般的にアンケート調査の回収率は 3～4 割であることを考慮し、今回は対象者数を 1,500 人と設定したところであるが、回収率が高いに越したことはないので今後も工夫していきたい。

○ 大川会長

1,500 人の選び方などアンケートには難しいところがあるが、回収率 39%は決して低い数字ではなく、統計上も有意であるといえる。審議会としては、アンケートでこのような意見がでたからそうするというのではなく、今後の議論の参考にしていくことにしたい。議論の結果、違う施策展

開もあり得るということである。

○ 大川会長

市民アンケートの問 5 の解説で「ごみの出し方やモラルに対する不満」と結論付けているが、モラルに関する設問がなかったようである。これは所感が入っているのか。

○ 園部主査(事務局)

アンケートの結果そのものではなく、結果を分析するとそうではなかろうかという部分。結果そのものとは一線を画していただければと思う。

○ 大川会長

モラルの教育についてどうするかというのは、昨年から審議会でも話題にしている。ごみの出し方に関する教育や、ごみに関するモラルの向上は今後のテーマでもあると思う。

それから、事業者アンケートの問 11 で「これまでの取り組みで十分」が 26%となっている。他の審議会や割り箸リサイクルの委員会にも参加しているが、この結果はショックである。なにかこころあたりはあるか。

○ 園部主査(事務局)

事業者の話の聞くとコストの話がでてくる。経済情勢もあいまってこれ以上コストがかかるぐらいであれば今のままでいいではないかという意見がよくある。こういったところが影響したのではないかと思われる。事業者専用袋の 1 枚 150 円が原価的には安いのに高いという意見が出ていることも踏まえるとコストが影響しているのではないかと思う。

○ 大川会長

事業者専用袋の 1 枚 150 円を高いと感じる意見があることと、26%がこれまでの取り組みで十分という結果に関連があるかもしれない。1 枚 150 円も払っているのだからもういいのではということである。

なお、事務局には耳が痛いかもしれないが、ごみの問題はセクションがあちこち分かれており、産業の側面から考えると商工観光部になる。特定のセクションで見ると意識が低いという結果になるのかもしれない。全体で見ると、いろいろやっつけていわき市はがんばっているなという感じはする。

○ 石川委員

事業者アンケートの問 10「事業系一般廃棄物をどのように処理しているか」であるが、回答選択肢 5「一般廃棄物収集運搬業者に収集を依頼し、民間処理施設で処理している」の民間処理施設とはどこを指しているのか。民間処理施設はあまり聞かないので、この選択肢を選んだ事業者は不適正な処理をしていることにならないか。

○ 園部主査(事務局)

設問では事業系一般廃棄物の処理方法としているが、回答者が産業廃棄物も含めて回答していることが推測される。市内の一般廃棄物処理業は焼却で 1 か所、木くず破砕で 3 か所などあまりない。「かん類・ペットボトル」「びん類」「リサイクルするプラスチック」も事業系一般廃棄物としているのは従業員の嗜好に伴うものだけであり、基本的には産業廃棄物である。しかしながら産業廃棄物とすれば民間事業者は多数あり、さらに有価売却という可能性もある。設問では事業系一般廃棄物の処理方法としているが、回答者が廃棄物等の処理方法という認識で回答が返ってきた可能性が高いと考えている。

○ 石川委員

20 数%というのはかなり多いと感じた。

○ 大川会長

アンケートがすべてではないので、うのみにするのではなく参考にしていく。

○ 和田委員

内郷地区で新川の河川清掃を長年続けている。ポイ捨てごみは減ってきているが、春と秋の一斉清掃時には軽トラックで 1~2 台分のごみが出ている。パトロールを強化する必要があるかもしれない。

○ 大川会長

教育やモラルの向上はわれわれが取り組む必要がある。勝手に捨てさせておいて NPO に拾わせるというのは悪いシナリオなので、モラルの向上をきちんとやってそれでもごみが出た場合は NPO が対応するなどの流れにしなければならない。

○ 和田委員

10 年までは 10 台分ぐらい出していた。

○ 大川会長

その意味ではモラルが向上してきているが、まだまだ取り組む余地があると思う。モラルは急に向上するのではなく、じわじわと向上することにも留意する必要がある。

○ 和田委員

団地やアパートの人が協力的でないという話も聞く。集積所に夜から捨てる人もいるなど保健委員としても困っている。罰則規定もない。また、いわき市に転勤してきた人などの問題もある。カレンダーで決められた日以外に出す人がいる。

○ 大川会長

現代社会における都市化のコスト・都市化の弊害に関するご指摘である。社会現象として起き得る問題である。

○ 鈴木(幸)委員

不法投棄対策でパトロールを増やしているのではないか。

○ 永井課長(事務局)

昭和 57 年から続いている「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」や平成 12 年に策定した「いわき市ポイ捨て防止による美化推進条例」に基づく活動などを通して、環境教育や不法投棄の防止に取り組んでいる。また、不法投棄監視員によるパトロール活動や、シルバー人材センターに委託した美化活動などを行っているところである。

○ 石川委員

いろいろな政策があるが、環境保全と減量を同じ視点でやると難しくなる。長年この審議会に参加しているが大きく具現化したものはなかったように思う。

生ごみについては、行政が直接取り組むことはないとのことだが、全国各地の状況を見ると、生ごみ処理施設があちこちにできても、資金繰りや引取り先がないという点で行き詰っている。民間の施設を待っていたらなかなかできない。行政主導で行うことも含め、選択肢の優先順位をこの審議会でも議論する必要があるのではないか。

○ 大川会長

この審議会の目的はごみ減量である。ごみ処理全体に関する苦情処理機関でもないし、美化に関する機関でもないことは押さえておく必要がある。ただ、ごみを減量するにあたり、まちの美化なども関係してくるということである。ウエイトが異なっており何でも審議会でするというわけにはいかない。

横浜市の例だが、ごみ減量をした結果、焼却場が1ついらなくなったというのがある。理想的にはごみ全部を取り上げたいが、数値目標などに基づき、まずはごみ減量化を進める方向で取り組みたい。

○ 鈴木次長(事務局)

会議の冒頭 A3 の概要資料も見ていただいたが、前回説明させていただいた経緯もあるので発言させていただきたい。

今いわき市では2つある清掃センターで燃えるごみを燃やしているが、人口減少が進むなか、このままコストをかけて2つで燃やしてよいのかという問題意識をもっており、可燃ごみを大幅に減らして焼却場の1場化を目指していくという方向がいわき市にとって必要ではないかという認識のもとに、このようなかたちで骨子をまとめたところである。

真ん中の「将来世代に引き継ぐごみゼロいわき」の下に、焼却埋立ごみの削減による古いほうの焼却施設である北部清掃センターの早期廃止を目指すようなごみ減量の取り組み、ひいては最終処分場のさらなる延命化を目標にするごみ減量の取り組みを進めることを掲げたところである。そのために右側に重点プロジェクトの項目出しをしているが、いまご意見をいただいたように、生ごみが可燃ごみの中で多くの比率を占めていることからすると、生ごみを減らさないことには可燃ごみの大幅な削減は難しいと考えている。

今、市で生ごみ処理施設をつくってはとのご意見をいただいたが、生ごみの減量に向け、どうやってシステムとして取り組んでいくかという点については今後ご議論いただきたいと思います。

家庭系、事業系から出る生ごみについて、重点的に減らすような対策を事務局としては考えていきたい。それをこのような場で今後議論していただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○ 大川会長

資料左側にある環境基本計画の審議会では環境行政を幅広く議論できるが、ごみの方ではごみ減量を中心に議論をしてきたい。

○ 石川委員

私の方で審議会の目的を拡大解釈してしまう傾向があるようだ。

○ 大川会長

ごみ減量以外の話をしないということではないので、今後ともぜひ発言いただきたい。

○ 岡委員

生ごみの話がでたが、ディスポーザーを検討したことはあるのか。

○ 永井課長(事務局)

生ごみ対策のひとつの手段であるという認識はあるが、下水道計画との整合も図る必要がある。ディスポーザーの普及率が高くなった場合に下水道処理などに問題が生じる恐れも考えられるため、いわき市においては今のところ認めていないというかたちになっている。

今後、生ごみ対策の手段として出てくる可能性はあるが、現段階ではそこまで詰めている状況ではない。

○ 岡委員

うまくやれば生ごみは減る。全国的に下水道が受け入れないというところをつまづいている。できれば、いわき市でもモデル地区を作ってデータを蓄積するなどの取り組みはできないものかと思う。

○ 大川会長

これは提案なので、100%否定せずに今後の検討課題としてください。

○ 永井課長(事務局)

下水道に負荷のかからないタイプのディスポーザーも出ているようなので、今後、生ごみ減量策のひとつとして調査・検討していきたい。

○ 鈴木(司)委員

私どもの会社では約3,000トンの生ごみが出ており、そのうちの1,000トンが青果である。生ごみ処理は課題であるが、日立市で事業所用のディスポーザーについて相談したら OK が出た。ただ指定の業者や機械を使ってほしいということなので考えあぐねているところである。

○ 大川会長

議論のためのアイテム抽出ということでよい議論ができたと思う。なお、報告書についてわからない点があれば、事務局に質問してください。

(2) 製品プラスチックと雑がみのリサイクルに向けて

リサイクル係遠藤係長から資料 2 について説明があった後、質疑応答となった。

○ 岡田委員

モデル地区の世帯は何世帯ぐらいに参加してもらうのか。

○ 遠藤係長(事務局)

地区名まではここに示していないが 500 世帯ぐらいの住宅団地を予定している。

○ 鈴木(司)委員

勤務先の例で言うと、ビデオ・CD・ハンガー・汚れていないビニールなどは業者が回収している。その辺も加えることができるとよいと思う。

○ 大川会長

冬場ゆえにバイアスかかることはないか。

○ 遠藤係長(事務局)

対象がプラスチックと紙なので季節による変動はないものと考えている。

○ 鴨下委員

燃えるごみにこのようなものがどれだけ入っているかという調査だと思うが、地区を決めるのではなく、抜き打ちで集めて仕分けしたほうが実際の数字が出るのではないか。

○ 大川会長

モデル地区で調べるのかランダムで抽出して調べるのかという点についてはどうか。

○ 遠藤係長(事務局)

ご提案の内容については、今回のモデル調査とは別に家庭ごみの組成調査というかたちで別途行っている。これは、お知らせしないで集積所に出していただいたごみを抽出し、適正なものと同適正でないものに分類するものである。そのようなデータは持っているが、新たな分別方式を想定した調査も必要と考えたものである。

○ 大川会長

目的が違うということで了解した。

○ 鴨下委員

モデル事業の目的で、リサイクルが可能になってきたと説明があるが、雑がみが紙になるのはわかるが、製品プラスチックはどのような使われ方をするのか。

○ 永井課長(事務局)

雑がみと製品プラスチックのリサイクルは最終的な引取り事業者もある程度想定しており、現段階では、製品プラスチックについてはマテリアルリサイクルを中心に考えている。

○ **大川会長**

私の住んでいる自治体では、プラスチックは燃えるごみに入れてくれ、生ごみも焼却炉の温度が下がるから入れてくれとなっており、ごみの分別区分は自治体によって考え方がだいぶ違う。企業の側でも、例えば大王製紙が昔は広告の紙を入れないでと言っていたのが今は入れてよいとなっているように、考え方が変わってくることもある。

「製品プラスチックと雑がみのリサイクルに向けた取り組み」について、審議会として支持することとする。

(3) 審議会の今後のスケジュールについて

リサイクル係園部主査から資料 3 について説明があった。

○ **大川会長**

次回は 3 月頃に開催予定である。

(4) その他

○ **鈴木(幸)委員**

次回の審議会だが何時頃にはじまって何時頃に終わるのか。

○ **園部主査(事務局)**

通常、時間は 14 時から 1 時間半程度を予定している。日程については会長とも相談して 3 週間ほど前には固め、委員の皆様には事前にお知らせしたうえで、あらためて文書による通知を送付させていただいている。今後もそのようなかたちでお願いしたいと思う。

○ **大川会長**

今日は委嘱状交付式があったので長くなったが、議事の時間はできるだけ 1 時間半程度で考えている。